

市民学芸員活動報告 平成26(2014)年9月 第9号



みはら玉手箱



隆景公



三原駅～広島駅間開通 120周年記念特別企画展 (平成26年7月18日～8月10日)



山陽鉄道ものがたり 大成功裏に終了

1. 企画展開催の趣旨 (右図のチラシより)

明治27(1894)年6月10日に三原駅(現糸崎駅)から広島駅まで山陽鉄道が開通しました。鉄道の開通により、三原市には旧糸崎鉄道学校の開設、三菱重工鉄道車両工場の進出など鉄道関連の施設が集中していました。今年度は開通120周年を迎えたので、三原リージョンプラザを主会場にして企画展が開催されました。

(市民学芸員は、収集グループを中心に、会場受付や展示品の解説等で展示会を支援しました。)



〔特別企画展のチラシ〕

2. 展示品例 (JRはじめ企業・博物館・個人等からのご協力によります)

展示会場には、長年親しまれてきた山陽鉄道(後の山陽本線)の蒸気機関車・電車・新幹線の模型、写真や資料等約170点が紹介されました。



明治27年時刻と運賃表



D51形蒸気機関車



EF30交流直流用電気機関車



湘南型電車と
こだま型新幹線



明治26年に提出された
三原城址内の官有地等払下げ願絵図面

3. 展示会場の様子



オープンハウス 直後の全体説明会



特大サイズの模型運転会場
は、親子づれに大人気



新幹線運転台のシミュレータ
は幅広い年齢層が挑戦



市民学芸員による分かり
やすいパネル解説

<入場総数> 3,217 人
<支援学芸員延べ数> 196 人

アンケート記入例

- 実際にシミュレータを運転できて楽しかった
- 懐かしく、感動した
- 時間を忘れて見学した
- 説明員の対応は感じがよかった

目の肥えた見学者からは、
● 内容が乏しい
等の感想ありました。

4. 関連行事

- (1) 記念講演
「日本の近代化と山陽鉄道」
(公財)交通協力会 主任研究員
堤 一郎氏
- (2) 鉄道対談
「山陽鉄道を語る」
(公財)交通協力会 主任研究員
堤 一郎氏
元広島県立歴史博物館主任学芸員
松崎 哲氏
元JR西日本 運転士
宇田賢吉氏
- (3) 鉄道模型運転会 (土日祝日)
鉄道友の会中国支部
模型部会九宮島
- (4) 蒸気機関車特別公開 (7月30、31日)
三菱重工業(株)三原製作所構内

【ご意見受付】
この「みはら玉手箱」へのご意見等は
三原市教育委員会文化課
bunka@city.mihara.hiroshima.jp宛に
お寄せください

みはら おもしろクイズ



(解答は次頁にあります)

三原にある 新四国八十八ヶ所 を探る

1. 四国八十八ヶ所

(1) 高野山開創1200年

弘仁5(816)年、空海(後の弘法大師)により開創された高野山は、来年1200年にあたります。空海が修行したという四国八十八ヶ所霊場には、日本各地だけでなく海外からも大勢の方々「お遍路さん」となって訪れています。男女・年齢さらに宗派の違いや大師信仰の有無をも問わず参加されている日本で最も有名な霊場巡りでしょう。

(2) 大師信仰

大師信仰とは、弘法大師、元三大師、善導大師など各宗派の祖や高僧に対する信仰のことで、弘法大師(空海)は、真言宗であります。

高野山は、開創以来たびたび火災に遭い、多くの堂舎を失ってきたので、その復興のため半僧半俗の高野聖たちが勧進(募金活動)の役目をしました。高野聖たちが、大師の徳を説いて諸国を勧進に回ったので、大師信仰が全国に広がったとされています。

(3) お遍路の動機

遍路は、元來僧侶の修行目的でしたが、次第に一般人に広がり、調査によりますと、現代人の動機で多いのは、以下の通りだそうです。

- 人生の節目において自分自身を見つめなおしたい
- 近親者の病気平癒祈願
- 厄払い
- 日本の文化として人生一度は経験したい
- ダイエット

(4) お接待

四国遍路は、お遍路さんへの地元の人達によるお接待も有名です。お接待の動機について色々な調査がなされていますが、主な動機には以下があります。

- お遍路さんを助けたい
- 先祖の冥福
- 願掛けや願いがかなったお礼
- 弘法大師信仰
- 自分が受けた接待の返礼
- 人に奉仕するため

2. 三原

2.1 大師堂分布図

右図は『三原市史 第七巻』に掲載されている旧三原市内(平成の合併前)の大師堂分布図です。(小さな・印が大師堂)

2.2 三原の八十八ヶ所

(1) 新四国八十八ヶ所(西野～本町～糸崎方面)

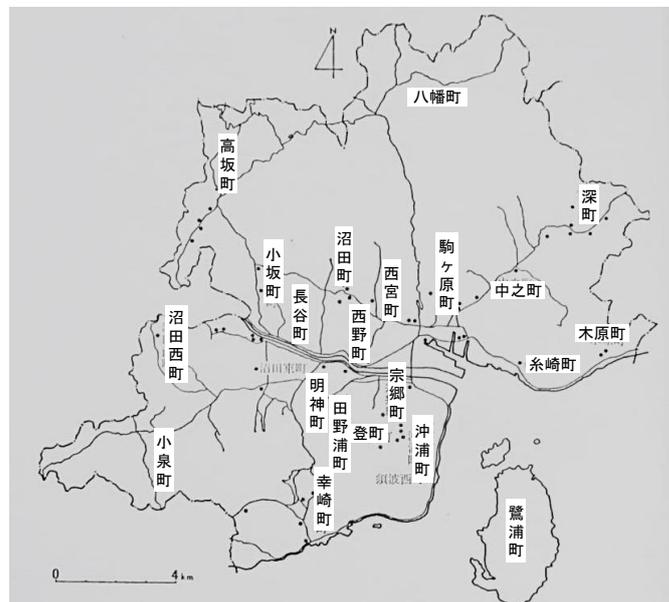
次頁に掲載の「道志るべ」によります。

<コース>

旭町→中之町→後山→木原→糸崎→東町→
→館町→本町→西町→西宮→西野→頼兼→
宮浦→館町(中院)

<残存大師像数>

この道志るべ昭和版が出来た時点では、6、7、8、88番の存在は不明でした。その後の追跡調査結果が待たれます。



右図は、昭和61(1986)年7月に竹之内将志、久保等、石井孝誉の三氏が後山住の戸川勝氏蔵の元本をもとに、昭和版として再編集されたものの表紙です。

奥書「発願主 中台院現住 本初 阿闍梨
明道 沙門 善明 彫刻士尾道柳桜堂」

この八十八ヶ所めぐりの大師像は、大師堂内をはじめ、神社や寺の境内や路傍・個人屋敷内の小堂などにも祀られており、寺院は真言・曹洞・浄土・時宗と宗派を超えています。

<大師像の製作年代>

第15番の台石に刻まれた文字や発願主 本初との関係から、編集者は寛政年間(1789~1801)と推定されています。

<お接待>

かつては旧暦三月二十一日が接待日でしたが、近年は、糸崎以東が同二十日、その他は同二十一日の2日に分けて行われています。

巡拝者は、小銭と米を賽銭とし、各地域の大師講のメンバーの方が、軽いお菓子等でお接待されています。

(2) 旧田野浦村八十八ヶ所(幸崎町久和喜~宗郷~沼田東方面)

『三原市史 第七巻』に以下の記載があります。

「登町から幸崎町久和喜にかけての八十八ヶ所は古いといわれている。かつては三月二十一日には西条あたりからもお参りがあり、その人々は前日、沼田東町本市の善根宿に泊まり、朝早く出たという。本市から明神町、田野浦町、宗郷町、久和喜、久和喜沖の小島(有龍島)に船で渡り、再び久和喜、登町と続く行程で八里ほどの道のりであったらしい」

久和喜地域の場合、23ヶ所あり、それぞれ四国の巡礼寺を本寺として明記し、地元有志の手で配置図も整備されていますが、その他の地域も整備されていることを望みたいものです。

お接待は、こちらでも大師講のメンバーで継続している箇所が多いようですが、特に久和喜地域の場合は、旧暦三月、七月、十一月の二十一日で、年に3回行われています。

(3) さぎしま八十八ヶ所(佐木島)

この島には古くから、島四国として八十八ヶ所に石仏が配置されており、近年「元気さぎしま協議会」により、殆ど全てのヶ所に石柱が新設され、案内板も島内3ヶ所に設置されています。これらの活動内容はインターネットも活用して、広く全国に発信されています。

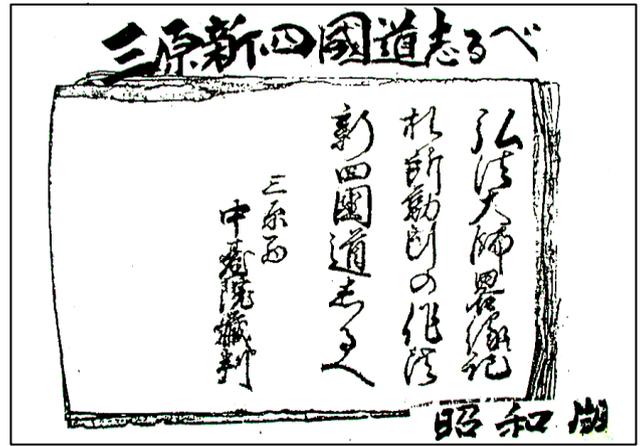
お接待は、昔は春と秋でしたが、近年は一月と五月の年2回実施されています。

(4) 久井町内新四国八十八ヶ所

明治40(1907)年に、地元の実力者が発起人となって八十八の弘法大師像を完成させましたが、付近の石工を動員し、昼夜兼行で三年間で仕上げたといわれています。

久井町には、それ以前にも大師像があったようで、それを旧四国八十八ヶ所弘法大師像(三分の一現存)、明治40年作を新四国八十八ヶ所弘法大師像として区別して配置図が整備されています。お接待は、あまり盛んではないようです。

(5) その他 木原八十八ヶ所のほか、筆影山登山道の途中にある小規模の八十八ヶ所めぐり等、他にもいろいろあります。



「三原新四国道志るべ」 昭和版
弘法大師略縁記 札所勤行の作法
新四国道志るべ 三原西 中台院蔵判
元本には、四国の本寺と本尊も記入されていましたが、昭和版では省略されています。

おもしろクイズ

大正7(1918)年、広島新四国八十八ヶ所霊場が、広島市を中心にして安芸地区に開創され、その56番目は三原市に霊場が指定されました。どちらのお寺でしょうか？

- (ア) 棲真寺(大和町)
- (イ) 松寿寺(東町)
- (ウ) 宗光寺(本町)



三原のお祭り



沼田本郷夏祭り

今年は荒天のため、実施が危ぶまれながらも、西暦の年号に合わせて2014発の花火が本郷の夜空を彩りました。沼田本郷の夏祭りを語るには、私たちはまず江戸時代にあった飢饉のことを知らねばなりません。250年余り続いた江戸時代には、3つの大きな飢饉がありました。そのうちのひとつ、^{てんぽう}天保飢饉が沼田本郷の夏祭りの起源なのです。天保4～7（1833～6）年、冷害や洪水による大飢饉の上コレラも蔓延し、人々の生活は悲惨で飢え死にする人（特に子ども）が多く、それでも藩からは重い負担が課せられ、困窮きわまりない生活でした。

本郷の松ケ下（今の西下岡）にあった仏通寺の末寺、尼寺の大安実悟尼は、村人の哀れを強く感じ、尼寺の石地蔵にひたすら祈り続け、死者の供養に努めました。そこで尼僧は上市の川土手に、飢饉や悪病で倒れていった村人を供養するため、石地蔵の建立を思い立ち、寄進をお願いするために、豊田郡や、賀茂郡内を歩いて、浄財を集めました。そうして、地元の石工・弥助に、尼寺にある石地蔵を手本に同じような石地蔵を作らせ、それを一丁目の沼田川土手本郷橋の袂、大師堂（大渡り的大師堂と呼ばれた）の道路向かい側に、天保14（1843）年安置しました。その後、昭和20（1945）年頃、道路拡張工事に伴い現在の位置に移動されました。地蔵の台座には、正面に「三界萬霊」、側面に「天保十四年」「願主大安實悟尼」、後面に「當町石匠弥助」の字が読み取れます。

また数年後には、尼寺にあった地蔵を町内の東、今の西念寺の近くの道端に運んで、下市の石地蔵として安置しました。この台座の正面には、「三界萬霊塔」、側面に「天保六年」「願主大庵禪尼」と読み取ることができます。

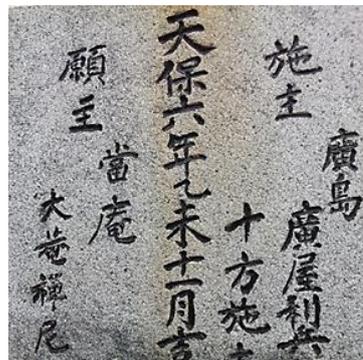
こうして人々は飢饉の犠牲者の慰霊を兼ね、町民あげての慰安の祭りをしました。そののち、毎年7月の二十三夜は、近郊の人々が田植えを終え骨休みを兼ねて地蔵を供養するというような、人々の生活と共にある祭りとして発展しました。



〔 上市の石地蔵 〕



〔 下市の石地蔵 〕



〔 右の石地蔵の側面 〕

また、昭和6（1931）年に、本郷三丁目、愛宕神社の町内会の人々が、尼僧の物語に思いを寄せ、どちらからでも拝める「両面地蔵」を作り、山車に乗せて町の中を引き歩きました。翌昭和7年二十三夜当日、円光寺垣井良馨和尚が書き写された一字一石が、「一善萬善」の台座の中へ収められ、落慶法要が行われました。この地蔵は子供の霊を守り、悪疫退散・家内安泰・交通安全のご加護があるといわれ、上市、下市の地蔵と共に、今も参拝者は絶えないそうです。これゆえに、本郷の人たちは、「江戸と昭和の地蔵と夏祭り」と言うのだそうです。



〔両面地蔵〕

かつて祭りには、一丁目から六丁目の本通り筋では人出を願って競うように美しい造り物をしました。例えば、牛若丸と弁慶、金色夜叉、竹内宿祢と神功皇后、楠正成と正行の別れ、豊太閤と曾呂利新左工門、安珍と清姫などです。戦前は年に一度のレクリエーションとして盛んでしたが、戦後はだんだんと造り物をしなくなりました。



〔メイン会場で繰り広げられた踊りや演奏〕

昭和29（1954）年、本郷、船木、南方、北方が合併し新本郷町の成立を期に、本郷町全体のお祭りになりました。名称も「地蔵祭り」から「二十三夜祭り」、昭和59（1984）年から現在の「沼田本郷の夏祭り」という変遷をたどり、今では2万人から2万5千人位の人出があり、地域に親しまれているにぎやかなお祭りです。



〔子ども神輿〕

今年（平成26年）の夏祭りは7月19日（土）時折激しく降る雨の中、それでも多くの人出で賑わいました。夕方、円光寺の住職さんが各お地蔵さんに供養のお経を唱えて廻られ、一方ステージ会場のある本郷支所や駐車場周辺では、安芸本郷太鼓、総合技術高校吹奏楽部の演奏、エネルギッシュな子どもたちのダンスや中高年の方の優雅なフラダンスなどが華やかに演じられ、屋台やバザーの出店は、家族連れや華やかな浴衣を着た若者たちで賑わいました。そしてフィナーレは、地元バンドによるジャズの生演奏にのせて、2014発の花火が打ち上がりました。



〔2014発の花火大会〕

「歴史を守りながら、現代感覚でアレンジして楽しもうと、4月から夏祭り実行委員会を立ち上げて準備をしました。4時から6時までプロローグ、そして本番が9時までのわずか5時間。意気込み、熱意は勿論のこと、170年の歴史ある祭りだということに、私たちは誇りを持っています」と、実行委員長の柳川さんがお話ししてくださいました。

石碑が語る三原の歴史

前号で取り上げた西町から、今回は三原城下を外れ、西野 頼兼界隈を歩きます。

西野の地は、古来天下に聞こえた梅の名所で、頼山陽や梁川星巖をはじめ多くの文人墨客が訪れています。

昭和26(1951)年出版の「三原市大観」によれば、そのルーツは、かの菅原道真公の大宰府西遷の途次お手植えのもので、六枚の花びらが開く「六弁(ろくべ)の梅」と伝えられています。そして「芸藩通志」には、その実は梅酢、焼き梅、削り梅、漬け梅に加工され、その利狭からず、と記されています。都市開発により往時の残照すらありませんが、近年梅林の復活をと、市や地元有志の方々により植樹が行われているようです。

道標



三原バイパス頼兼ランプ近くの頼兼町集会所の庭先に「頼山陽先生祖先之地 西三丁」と彫られた高さ136cmの道標が立っています。

これは、昭和27(1952)年頼兼城址に建てられた記念碑「頼山陽先生遠祖頼兼城址」を指し示す道標で、時を同じくして建てられたものと思われます。

もともと、現在地より50mくらい南、かつて三原城下より沼田下に抜ける山陽道(現在の旧国道2号線)と頼兼山に向かう道の交差点に立っていたそうです。宅地開発や新幹線、三原バイパスの開通によって大きく様変わりしてはいますが、その昔、ここから新倉瘡神社通称かさがみさんや沼田下に抜ける近道で、江戸期のバイパスであったと思われます。

[頼山陽先生祖先之地 西三丁]

今回はこの道標を起点として、頼山陽に因む“石”巡りになっています。

記念碑



[頼山陽先生遠祖頼兼城址]

頼兼山の懐から突き出した舌のように見える台地にあった頼兼城址に高さ2mの立派な石碑が建っています。現在その舌先は畑となっています。

これは、昭和27(1952)年9月、東町の真田秀吉工学博士が中心となって市からの助成金五万円をもって建立したものです。当時の広報によれば、「頼兼山は戦国時代の古城で、小早川隆景の臣、岡崎十郎左衛門頼兼の居城であったが夫人の姉妹の嫁す神辺城討伐に当たり、肉親の情絶ち難く、身重の夫人を里に返し一族自刃。その後裔が竹原に出て頼家先祖となった。」とあります。頼家出自には諸説あり、一説には隆景家臣として文禄の役に出征、隆景病没により浪々の身となり竹原に住んだとも。あるいは、単に沼田川流域から移住してきたという程度に読み取るべき、など諸説というより竹原までの軌跡ははっきりしていないということでしょう。

いずれにしても「頼兼屋」あるいは「兼屋」、「金屋」と称し、「頼」と名乗ったことからここ頼兼の地と何らかの因縁がある一族である事は否定できないであろうと思われます。

山陽にとって父祖の地と言えどももちろん竹原ですが、西野梅林を度々訪れたとき、南に聳える頼兼山を望み、先祖に思いをさせていたかもしれないと想像することは秘かな楽しみです。



句碑・詩碑



[堂柱ノ山陽先生 観梅詩]

是漸両吟
 雲到岸節
 是梅苔遠
 雪源蹊入
 白時花一
 模指作仙
 糊顧衢衢區

観梅詩 頼山陽

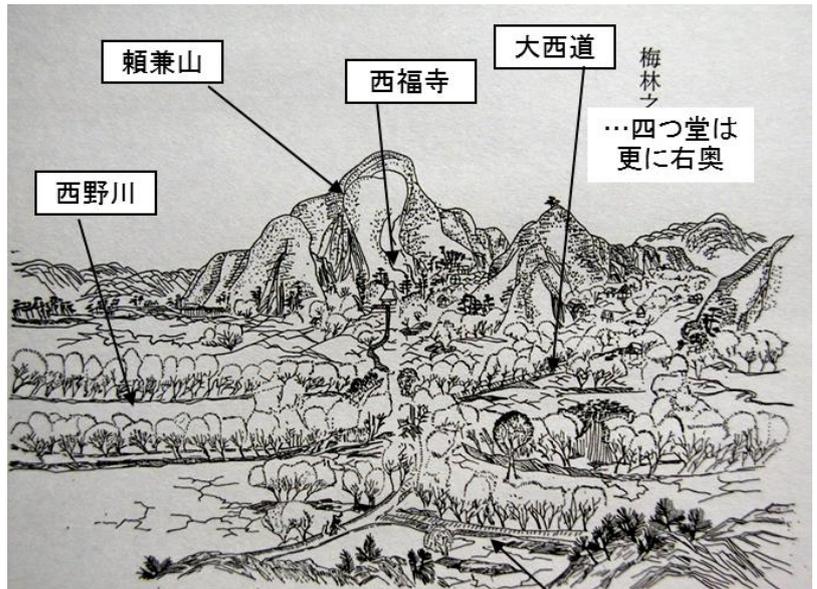


[四つ堂] の北西柱

民家の庭先から山裾にある四つ堂へと足を運びます。この細い道は沼田下から井屋峠をいやんたお抜け、三原城下に入る、中世からの街道筋です。

その昔、梅見に訪れた頼山陽が、四つ堂の柱(北西柱)に観梅詩を書きつけたそうです。徐々に判読不能となっていくのを惜しみ、三原保勝会の方々の手によって昭和27年に四つ堂脇にこの歌碑が建てられました。

土地の方に何うと、子供の頃には柱に小さな箱状のものが取り付けられ書を保護してあったとか。柱の黒っぽいしみに目を凝らし、はるかに時を超えて想ってみてください。険しい峠を越えてきた山陽の眼前に一気に開けた眺め、雲の如く雪の如くどこまでも広がる梅にしばし我を忘れ、書が堪能な山陽が、興が乗ったとはいえ、思わず柱に書き付けてしまった…それほど見事な眺望だったのたのでしょう。



[三原志稿より]

小西道

〔 概略マップ 〕





三原にある狛犬



今回は、八幡・久井の狛犬を紹介します。

16・八幡神社（通称 貞清社） 三原市久井町羽倉

はちまんじんしゃ

社伝によれば住古は原谷字森光音足山に鎮座していたが、天正年中（1573～1592）現在地の字貞清が郷の中央に付き、羽黒村の住人、末近四郎三郎をして遷座社殿建設したといひます。（広島県神社誌参照）



	単位：cm		
	高さ	幅	奥行
阿形	106	39	80
吽形	106	38	79
年代	昭和18（1943）年		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



17・御調八幡宮 本殿前

みつきはちまぐう

三原市八幡町宮内



	単位：cm		
	高さ	幅	奥行
阿形	88	27	76
吽形	86	25	74
年代	不明		
石工	不明		
石材	不明（焼き物？）		
型	構え型		



18・御調八幡宮 拜殿前

みつきはちまぐう

三原市八幡町宮内



	単位：cm		
	高さ	幅	奥行
阿形	133	39	82
吽形	135	39	82
年代	大正4（1915）年4月		
石工	上迫 泰爾		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



備後国総鎮護御調八幡宮は、神護景雲 3（769）年、臣下の身で帝位を望んだ道鏡の野心を、宇佐八幡宮の神託を得て退けた和氣清麻呂公が直諫の罪により大隅国へ流されたとき、姉法均尼（和氣広虫姫）は備後国に配流されこの地に流謫（るたく）の身を留め、齋戒沐浴、円鏡を御神体として、宇佐八幡大神を勧請して清麻呂の雪冤（せつえん）を祈願したことが創祀といわれています。 《御調（みつき）八幡宮 HP 参照》